

NEW N-SUBSTITUTED-1-DEOXYNOJIRIMYCIN DERIVATIVE AND METASTASIS-INHIBITOR FOR CANCEROUS CELL

Publication number: JP2306862 (A)

Publication date: 1990-12-20

Inventor(s): KURIHARA HIROSHI; YOSHIDA SEISHI; TSURUOKA TSUTOMU; TSURUOKA TAKASHI; YAMAMOTO HARUO; FUKUYASU SHUNKAI

Applicant(s): MEIJI SEIKA KAISHA

Classification:

- International: C07D211/46; A61K31/445; A61P35/00; C07D211/00; A61K31/445; A61P35/00;
(IPC1-7): A61K31/445; C07D211/46

- European:

Application number: JP19890127499 19880519

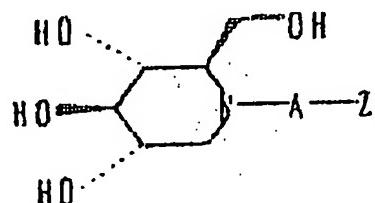
Priority number(s): JP19890127499 19880519

Abstract of JP 2306862 (A)

NEW MATERIAL: An N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative expressed by the formula [A is 3-5C hydrocarbon may be substituted with OH, halogenated alkyl or alkoxy (said hydrocarbon may have double or triple bond); Z is phenyl, fluorine-substituted phenyl, biphenyl, cycloalkyl or halogen-substituted alkyl].

EXAMPLE: An N-(3-phenyl-3-trifluoromethyl-2-propenyl)-1-deoxynojirimycin. **USE:** Used as metastasis-inhibitor for cancerous cell.

PREPARATION: For instance, 1-deoxynojirimycin is reacted with various aralkylation agent or aralkenylation agent in the presence of deoxidizer such as alkali hydroxide to afford the compound expressed by the formula.



Data supplied from the esp@cenet database — Worldwide

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A) 平2-306962

⑬ Int.Cl.³

C 07 D 211/48
A 61 K 31/445

識別記号

ADU

庁内整理番号

7180-4C

⑭ 公開 平成2年(1990)12月20日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全12頁)

⑮ 発明の名称 新規N-置換-1-デオキシノシリマイシン誘導体及びそれを含有する癌細胞転移抑制剤

⑯ 特 願 平1-127499

⑰ 出 願 平1(1989)5月19日

⑱ 発明者 粟 原 寛 神奈川県横浜市港北区鈴岡町760 明治製薬株式会社中央研究所内

⑲ 発明者 吉 田 潤 史 神奈川県横浜市港北区鈴岡町760 明治製薬株式会社中央研究所内

⑳ 発明者 鶴 岡 勉 神奈川県横浜市港北区鈴岡町760 明治製薬株式会社中央研究所内

㉑ 出願人 明治製薬株式会社 東京都中央区京橋2丁目4番16号

㉒ 代理人 弁理士 小堀 益 外1名

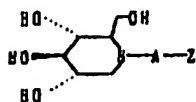
最終頁に続く

明細書

1. 発明の名称 新規N-置換-1-デオキシノシリマイシン誘導体及びそれを含有する癌細胞転移抑制剤

2. 特許請求の範囲

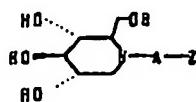
1. 式



式中、Aは水酸基、ハロゲン化アルキル基又はアルコキシ基で置換されてもよい炭素数3乃至5の炭化水素基を表し、この炭化水素基は二重又は三重結合を有していてもよい。Zはフェニル基、フッ素置換フェニル基、ビフェニル基、シクロアルキル基又はハロゲン置換アルキル基を表す。

で示されるN-置換-1-デオキシノシリマイシン誘導体又はその医療的に許容される版との付加基を有効成分とすることを特徴とする癌細胞転移抑制剤。

2. 式



式中、Aは水酸基、ハロゲン化アルキル基又はアルコキシ基で置換されてもよい炭素数3乃至5の炭化水素基を表し、この炭化水素基は二重又は三重結合を有していてもよい。Zはフェニル基、フッ素置換フェニル基、ビフェニル基、シクロアルキル基又はハロゲン置換アルキル基を表す。

で示されるN-置換-1-デオキシノシリマイシン誘導体又はその医療的に許容される版との付加基を有効成分とすることを特徴とする癌細胞転移抑制剤。

3. 発明の詳細な説明

【医療上の利用分野】

本発明は、癌細胞の転移形成を阻害する新規N-置換-1-デオキシノシリマイシン誘導体並びにその物質を有効成分とする癌細胞転移抑制剤に関するもの。

【従来の技術】

現在使用されている制癌剤は種々あるが、その主体は、癌細胞を殺細胞させるか、人の免疫系を

介して死滅させる薬剤であり、癌の根本的な治療に対して有効な薬剤は未だ得られていない。

また、化学療法薬の有効性が低い原因等に対しても外科手術、放射線療法等の物理的療法が行われ、原発癌の除去という点では成功率が大幅に向正在している。しかし、反復癌細胞の転移を抑制することも課題である。

(発明が解決しようとする課題)

上述の如く、従来の癌治療において、癌細胞の増殖が癌治療患者の予後を左右する最大の問題となっている。

従って、この癌細胞の転移を抑制することが求められるが癌細胞の闇免は現在最も重要な問題である。

本発明はこの課題を解決する癌細胞転移を効果的に抑制する物質及びその複合物質を有効成分とする癌細胞転移抑制剤を提供することを目的とするものである。

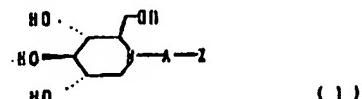
(課題を解決するための手段)

本発明者は既に癌細胞転移抑制作用を有する

N-置換-1-デオキシノジリマイシン誘導体を見出し、特開昭63-31095号公報、特開昭63-93873号公報、特開昭63-97454号公報、特開昭63-101850号公報、特開昭63-147815号公報及び特開昭63-147816号公報に開示した。

本発明者は更にN-置換誘導体を合成し、その広範な評価を行ったところ、強い癌細胞転移抑制作用を有する一群の新規な化合物を見出し、本発明を完成した。

本発明は、式(1)



(式中、Aは水酸基、ハロゲン化アルキル基又はアルコキシ基で置換されてもよい炭素数3乃至5の炭化水素基を表し、この炭化水素基は二重又は三重結合を有してもよい、Zはフェニル基、フッ素置換フェニル基、ビフェニル基、シクロアルキル基又はハロゲン置換アルキル基を表す。)で示

されるN-置換-1-デオキシノジリマイシン誘導体、並びに同化合物又はその適量的許容される量との付加量を有効成分とする癌細胞転移抑制剤である。

本発明の式(1)で示されるN-置換-1-デオキシノジリマイシン誘導体は文献未載の新規物質である。

そして、このN-置換-1-デオキシノジリマイシン誘導体に含まれる化合物の例としては次のような物質が挙げられる。

N-(3-メトキシメチル-3-フェニル-2-プロペニル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(3-フェニル-3-トリフロロメチル-2-プロペニル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(3-(4-フロロフェニル)-2-プロペニル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(3-(3-フロロフェニル)-2-プロペニル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(3-(2-フロロフェニル)-2-プロペニル)-1-デオキシノジリマイシン

N-(3-(4-ビフェニルプロピル))-1-デオキシノジリマイシン
N-(3-(4-フロロフェニル)-ブロピル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(3-シクロヘキシルプロピル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(3-フェニル-2-プロピニル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(2,3-ジヒドロキシ-3-フェニルプロペニル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(8,6,8-トリフロロヘキサル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(5,5,5-トリフロロベンツル)-1-デオキシノジリマイシン
N-(4,4,4-トリフロロブチル)-1-デオキシノジリマイシン
また、本発明のN-置換-1-デオキシノジリマイシン誘導体を癌細胞転移抑制剤として使用する場合の適量的許容される量の付加量としては、粗粒、臭化水素酸、脱酸、研磨、熱殺菌の処理、

細胞、卵巣、プロピオニン酸、コハク酸、グリコール酸、乳酸、リンゴ酸、酢石酸、クエン酸、マレイン酸、フマル酸、安息香酸、サリチル酸、メタシスルホン酸等の有機酸、更にはアスパラギン酸、グルタミン酸等のアミノ酸との付加成が挙げられる。

本発明の化合物はいずれも文献未記載の新規化合物である。その合成法としては本発明者らによられて見出された放線菌の代謝産物であるノジリマイシン（5-アミノ-5-デオキシ-D-グルコピラノース）（特公昭63-760号公報参照）の還元により得られる1-デオキシノジリマイシン（*Tetrahedron*, 24, 2125 (1968) 参照）を原料とする方法が最も一般的である。即ち、1-デオキシノジリマイシンを各種のアルコールに、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ジメチルスルホキシド、スルホラン等の極性溶媒又は、それらの混合浴媒中でアラカルキルハライド、アルケニルハライド又はアラカルキルスルホン酸エステル、アラカルケニルスルホン酸エステル等で代換される。

マトグラフィー等の一般的な検査法によって本発明の式(1)の化合物を得る。

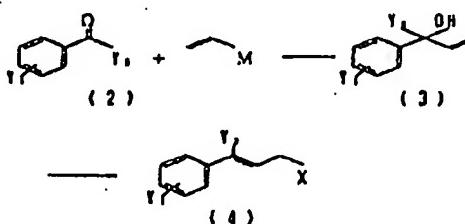
本発明の化合物の医薬基の形成及び導入に関しては合目的な適宜の方法によって合成することができる。式(1)のA-Z基を構成するためのアラルキル、アラルケニル、アラルキニル化剤の製造については適当な方法として下記の5通りの製造法を示す。

四百三

化合物(2)とビニル金属化合物、又は塩化ビニルマグネシウム、臭化ジニルマグネシウム、沃化ビニルマグネシウム、ビニルリチウム、ジビニル亜鉛、ジビニル銅、ジビニルセシウム等とを塩基性溶媒中、詳しくはエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン中で-50℃一室温、10分~24時間反応させることによって化合物(3)を合成することができる。化合物(3)を塩酸、臭化水素酸、オキサリルクロリド、ハロゲン化チオニル、オキシハロゲン化物、三ハロゲン化物、五ハロゲン化物、3置換ホスフィン-四ハロゲン化炭

各組のアラルキル又はアラルケニル化試料と水酸化アルカリ、炭酸アルカリ、塩炭酸アルカリ又は適当な有機アミン類等の脱離剤の存在下で窒温又は加温することによって本発明の式(1)の化合物のN-置換A-Z基を導入することができる。また、水酸化を適当な保護基、例えばアセチル基、ベンゾイル基、テトラヒドロビラニル基、1-アーブチルジメチルシリル基等で保護した1-デオキシノジリマイシンを原料として用い、N-置換反応を行わせたのち、脱保護する方法も用され得る。また反応試薬としてカルボニル基を有する試薬を用いて起元的条件下、例えば硫酸、シアノ水素化ホウ素ナトリウム、水素化ホウ素ナトリウム或いは適当な金属触媒、例えば酸化白金、パラジウム、タネニッケル等の存在下、水素雰囲気下でいわゆる起元的アルキル化を行う方法、或いは1-デオキシノジリマイシンとアラルキルカルボン酸、又はアラルケニルカルボン酸とのアミドを起元して目的物を得る方法も使用することができます。これらの化合物は必要に応じて再結晶、カラムクロ

量、アリルスはアルキルスルホニルハライドと無
溶媒又はベンゼン、トルエン、エーテル、塩化
メチレン、アセトニトリル等の溶媒中で0℃~100
℃、30分~24時間反応させることによって化合物
(3) のアリルアルコール部分の経路を伴いが
ら化合物 (4) を合成することができる。



(式中T)は水素原子、ハロゲン原子、アリル基又は水酸基を表し、Yは水素原子、ハロゲン原子、アリル基、アルコキシ基、ハロゲン置換アリル基を表す、Xはハロゲン原子、アルキル又はアリルスルホニロキシ基を表す。ハロゲン原子としては、塩素、臭素、iodine等を、アルキル又はアリルスルホニロキシ基としてはメタンスルホニルオキシ基、トリフルオロメタンスルホニルオキシ基等を表す。

ドートルエンスルホニルオキシ基を示す。Mは1個又は2個の金属或いはその位を表し、金属としてはリチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、亜鉛、セシウム、銀を示す)

製造法2

化合物(2)を適当な溶媒、好ましくはベンゼン、トルエン、エーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、塩化メチレン、クロロホルム、メタノール、エタノール中カルボアルコキシメチレントリ置換ホスホランと0℃～60℃で10分～24時間反応させることにより、又は適当な酸基、例えば水素化ナトリウム、水素化カリウム、水素化アルカリ、液酸アルカリの存在下、ジアリカルキホスホノ酸ジアラカルキエスチルと0℃～60℃で10分～24時間反応させ、不飽和エステル(5)を合成する。化合物(5)を適当な非プロトン性溶媒、好ましくはエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン中、適当な水素化金属錯体還元剤、好ましくは水素化アルミニウムリチウム、ジイソブチルアルミニウムヒドリド、水素化ビス(2-メトキシエト

キシ)アルミニウムナトリウムと-78℃～100℃で30分～18時間反応させることによりて化合物(6)を合成することができる。化合物(6)を過酸、臭化水素酸、オキサリルクロリド、ハロゲン化チオニル、オキシハロゲン化銀、三ハロゲン化銀、五ハロゲン化銀、3置換ホスフィン-四ハロゲン化銅、アリル又はアルキルスルホニルハライドと銀塩或いはベンゼン、トルエン、エーテル、塩化メチレン、アセトニトリル等の溶媒中0℃～100℃で30分～24時間反応させることにより、化合物(4)を合成することができる。

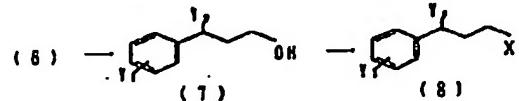


(式中、Y₁、Y₂は前記と同一意緒を有し、Rはアリカル基などのカルボキシル基の保護基を有す)

製造法3

製造法2によって得られるアルケニルアルコール(6)を適当な有機溶媒、例えばノナノール、

エタノール、酢酸、テトラヒドロフラン、酢酸エチル等中で、金属触媒、例えばパラジウム-炭素、白金、ラネニッケル等の存在下で水素ガ氷氣下で30分～24時間還元し、飽和アルコール(7)を合成することができる。化合物(7)を臭化水素酸、オキサリルクロリド、ハロゲン化チオニル、オキシハロゲン化銀、三ハロゲン化銀、五ハロゲン化銀、3置換ホスフィン-四ハロゲン化銅、アリル又はアルキルスルホニルハライド等の溶媒中で0℃～100℃、30分～24時間反応させることにより、化合物(8)を合成することができる。

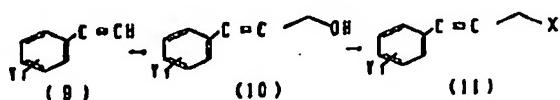


(式中、Y₁、Y₂、Xは前記と同一意緒を有す)

製造法4

1-アリカルセチレン誘導体(9)を適当な酸基、例えばカーボン酸ナトリウム、リチウムジイソブチルアミド、ナトリウムアミド等でアセチリ

ドとしたのち、カルバリンと反応させることにより、アルキニルアルコール(10)を合成することができる。化合物(10)をオキサリルクロリド、ハロゲン化チオニル、オキシハロゲン化銀、三ハロゲン化銀、五ハロゲン化銀、3置換ホスフィン-四ハロゲン化銅、アリル又はアルキルスルホニルハライドと銀塩或いはベンゼン、トルエン、エーテル、塩化メチレン、アセトニトリル等の溶媒中0℃～100℃で30分～24時間反応させることにより、化合物(11)を合成することができる。



(式中Y₁、Y₂、Xは前記と同一意緒を有す)

製造法5

支鏈ハロゲン置換アルキル化剤の製造法としては、例えばローハロゲン置換脂肪酸(12)を適当なフッ素化剤、例えば四フッ化イオウ(Knorr, Chro. Interat., Ed., 1, 67(1962))で処理することに

よってトリフルオロメチル誘導体(13)を合成することが出来る。



(其中、 λ は単純と同一平面を有す)

以上の製造法1～5で製造されたアラルキルハライド又はアラルキルスルホン酸エステル、アラルケニルスルホン酸エステル等で代換される各種のアラルキル又はアラルケニル化試剤と各種アルコール類、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ジメチルスルホキシド、スルホラン等の極性溶媒又はそれらの混合溶媒中、水酸化アルカリ、炭酸アルカリ、氷炭酸アルカリ又は、適当な有機アミン類等の脱酸剤の存在下で加温又は加温することによって、本発明の式(1)の化合物のN-置換A-Z基を導入することができる。また、水酸基を適当な保護基、例えばアセチル基、ベンゾイル基、ナトロビ

(式中、 T_1 、 T_2 は前記と同一意味を有す、 R' は水素原子、アセチル基、ベンジル基、ベンゾイル基、ビバロイル基、 α -ブチルジメチルシリル基、テトラヒドロピラニル基を示す)

次に本発明の N-置換-1-デオキシノグリファイシン誘導体の例を示す。

四百八

N-(3-フェニル-3-トキロロメチル-2-プロペニル)-1-デオキシノリマイン
エビ・1

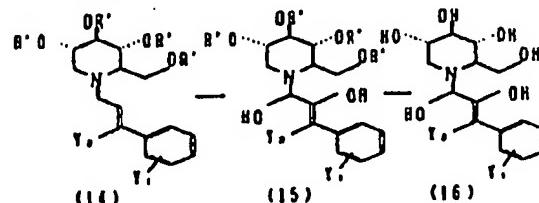
3-フェニル-3-トリアロロメチル-2-ブロベン-1-オール

2. 2-トリアセトフェノン1.748
 (10.0 g) をテトラヒドロフラン10mLに溶かした溶液を-78°Cに冷却し、1Mビニルマグネシウムブロミドテトラヒドロフラン溶液を加下す。加下終了後3時間同温度で搅拌後、冷浴を取り去り1時間搅拌する。氷冷下水を加えて過剰の試薬を分解した後、溶液を留出する。留出液に2N硫酸10mL加え、酢酸エチルで抽出する。抽出液を

ドロビラニル基、ヒープチルジメチルシリル基等で保護した1-デオキシノグリマイシンを原料として用い、N-置換反応を行わせた後、脱保護する方法も採用される。本発明に含まれる化合物のうち、式(1)中Aが水酸基で置換された炭化水素であるものについては、次に示す製造方法6に従って製造することができる。

第四步

製造法1、成いは2に従って合成したアルケニル化剤と1-デオキシノジリマイシン成いは水酸基を保護した1-デオキシノジリマイシンとを反応させることによって合成することができるN-留換-1-デオキシノジリマイシン誘導体(16)を適当な脱化剤、例えば四塩化オスミウム等と反応させ目的物(16)を得ることができる。



水洗、乾燥後濾過する。残波をシリカゲルカラムクロマトグラフィー〔溶出浴液：エーテル-ヘキサン(1:10)〕で精製し、1.66 g(82.96%)の結晶を得た。

HAWAIIAN CHIEFS

2-61 (a, 1H), 5.52 (d, 1H), 5.62 (d, 1H).

6.43(44, 1H), 7.25 ~7.70(a, 5H)

工具 2

1-ブロモ-3-フェニル-3-トリフルオロメチル-2-ブロ
メチル-2-ブロベン
3-フェニル-3-トリフルオロメチル-2-ブロ
メチル-1-オール606 mg (3.00 ミリモル) とトリ
フルオロキスフィン943 mg (3.60 ミリモル) をア
セトニトリル4 ml に溶解し氷浴する。ここで4
化炭素1.26 g (3.80 ミリモル) を吸収に分けて加
える。氷浴下1時間搅拌した後、一夜室温下搅拌
する。反応液をエーテル10 ml で静置し、析出する
固体を遠心し、滤液を濃縮する。母液は再び
シリカゲルカラムクロマトグラフィー（流出溶媒
：ヘキサン）で精製し、410 mg (55%) の油状物

を得た。

NMR(CDC₂) δ

3.80(dq, 2H), 8.62(sq, 1H), 1.20~1.60(a, 5H)

工程3

N-(3-フェニル-3-トリフロロメチル-2-プロペニル)-1-デオキシノグリマイシン
デオキシノグリマイシン163 mg(1.00 ミリモル)
と1-ブロモ-3-フェニル-3-トリフロロメチル-2-プロペニル318 mg(1.20 ミリモル)をジ
メチルホルムアミド5 mLに溶解し、炭酸カリウム
201 mg(1.50 ミリモル)を加えて室温下8時間攪
拌する。反応混合物に飽和食塩水を加えてローブ
タノールで抽出する。抽出液を減圧下濃縮し、残
液をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出
浴槽:クロロホルム-メタノール(10:1))で
精製し311 mg(90%)の銀色固体を得た。

NMR(CD₃OD) δ

2.15(a, 2H), 3.10(dd, 1H), 3.16(t, 1H),

3.31(a, 1H), 3.42(t, 1H), 3.53(a, 1H),

3.78(dd, 1H), 3.98(ABX type, 2H),

6.72(l, 1H), 7.32(o, 2H), 7.46(a, 3H)

製造例2

N-(3-メトキシメチル-3-フェニル-2-プロペニル)-1-デオキシノグリマイシン
製造例1と同様にして合成した1-ブロモ-3
-メトキシメチル-3-フェニル-2-プロペニルを用いて合成した。

NMR(CD₃OD) δ

2.13(a, 2H), 3.05(dd, 1H), 3.16(l, 1H),

3.36(a, 1H), 3.44(l, 1H), 3.31(a, 1H),

3.38(s, 3H), 3.76(dd, 1H),

3.97(ABX type, 2H), 4.16(s, 2H),

6.08(l, 1H), 7.15~7.50(a, 5H)

製造例3

N-(3-(4-フロロフェニル)-2-ブロペニル)-1-デオキシノグリマイシン

工程1

メチル-3-(4-フロロフェニル)-2-ブロペ
ニル-エート
4-フロロベンズアルデヒド21 g(10.0 ミリ
モル)を酸化メチレン20 mLに溶解し、カルボメト
キシメチレントリフェニルホスホラン3.67 g(11.0
ミリモル)を加え、室温下3時間攪拌した。固体
を濾別し、滤液を濃縮し、残液をシリカゲルカラ
ムクロマトグラフィー(溶出浴槽:酢酸エチル-
ヘキサン(1:4))で精製し、銀色針状品1.81
g(90%)を得た。

ベン-1-オール1.33 g(97%)を得た。

NMR(CDC₂) δ

4.52(d, 2H), 6.31(a, 1H), 7.01(a, 2H),

7.15(a, 2H)

工程3

1-ブロモ-3-(4-フロロフェニル)-2-ブロペニ
ン-エート
3-(4-フロロフェニル)-2-ブロペニル-1-オール1.34 g(8.82 ミリモル)とトリ-β-
オクチルホスフィン4.28 g(11.5 ミリモル)をエ
ーテル20 mLに溶解し、冰浴下四臭化炭素3.52 g
(10.6 ミリモル)を数回に分け加える。室温下30
分攪拌した後、沈殿物を濾別し、滤液を濃縮し残
液をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出
浴槽:ヘキサン)で精製し1.61 g(85%)の銀色
油状物を得た。

NMR(CDC₂) δ

3.35(d, 2H), 6.30(a, 1H), 7.00(a, 2H),

7.10(a, 2H)

Mass m/z 214.216

NMR(CDC₂) δ

4.90(d, 2H), 6.25(a, 1H), 6.55(d, 1H),

6.95(a, 2H), 7.35(a, 2H)

工程2

3-(4-フロロフェニル)-2-ブロペニ
ン-エート
メチル-3-(4-フロロフェニル)-2-ブロペ
ニル-エート1.61 g(9.00 ミリモル)をエーテル
50 mLに溶解し、冰浴下冰温化アルミニウムリヤク
ム205 mg(5.40 ミリモル)をエーテル3 mLに溶解
したものに滴下する。油下後室温下30分攪拌し、
過剰の試薬を水で分離し、固体を濾別する。滤液
を濃縮し3-(4-フロロフェニル)-2-ブロ

工程4

N - [3 - (4-フロロフェニル) - 2-ブロ
ベニル] - 1-デオキシノジリマイシン
1-ブロセ - 3 - (4-フロロフェニル) - 2
-ブロベン 1.61 g (7.5 ミリモル) と 1-デオキ
シノジリマイシン 1.22 g (7.5 ミリモル) をジメ
チルカルムアミド 10 mL に溶解し、炭酸カリウム
3.12 g (22.5 ミリモル) を加え、窒温下2時間反
応した。反応混合物を水に注いでローブタノール
で抽出する。油状を留去した後、残液をシリカゲ
ルカラムクロマトグラフィー（検出器：クロロ
カルム-メタノール (10 : 1)）で精製し 1.36 g
(61%) の淡黄色の固体を得た。

NMR(CD₃OD) δ2.1 ~ 4.2 (m, 16H), 6.40 (m, 1H), 6.7 (m, 1H),
7.10 (m, 2H), 7.55 (m, 2H)

Mass m/z 298 (PO, M+1)

製造例4

N - [3 - (3-フロロフェニル) - 2-ブロ
ベニル] - 1-デオキシノジリマイシン

製造例3と同じにして合成した。

NMR(CD₃OD) δ2.15 (s, 2H), 3.04 (dd, 1H), 3.14 (t, 1H),
3.2 ~ 3.35 (s, 1H), 3.39 (t, 1H),
3.49 (m, 1H), 3.68 (dd, 1H),
3.94 (ABX type, 2H), 6.41 (d, 1H),
6.59 (d, 1H), 6.95 (dt, 1H), 7.16 (dd, 1H),
7.21 (d, 1H), 7.31 (ddd, 1H)

Mass m/z 298 (PO, M+1)

製造例5

N - [3 - (2-フロロフェニル) - 2-ブロ
ベニル] - 1-デオキシノジリマイシン

製造例3と同じにして合成した。

NMR(CD₃OD) δ2.1 ~ 2.25 (m, 2H), 3.06 (dd, 1H),
3.14 (t, 1H), 3.24 ~ 3.35 (m, 1H),
3.39 (t, 1H), 3.50 (m, 1H), 3.71 (m, 1H),
3.94 (ABX type, 2H), 6.45 (dt, 1H),
6.72 (d, 1H), 7.0 ~ 7.16 (m, 2H),
7.2 ~ 7.28 (m, 1H), 7.53 (dt, 1H)

Mass m/z (PO, M+1)

製造例6

N - [3 - (4-ビフェニル) プロピル] - 1
-デオキシノジリマイシン

工程1

メチル - 3 - (4-ビフェニル) アクリレート
(4-ビフェニルカルボキシアルデヒド 1.10 g
(6.00 ミリモル) をジクロロエタン 20 mL に溶解し、
カルボメトキシメチレントリフルオロニトリルホスホラン
3.03 g (9.10 ミリモル) を加え、窒温下1時間反応
する。油状を留去後、残液をシリカゲルカラム
クロマトグラフィー（検出器：エーテル-ヘキサン
(1 : 10)）で精製し、1.12 g (78%) の無色結晶を得た。

NMR(CDCl₃) δ3.83 (s, 3H), 6.49 (m, 1H), 7.30 ~ 7.60 (m, 9H),
7.75 (d, 1H)

工程2

メチル - 3 - (4-ビフェニル) プロピオネート
1

メチル - 3 - (4-ビフェニル) アクリレート
1.40 g (4.40 ミリモル) を炭酸エチル 50 mL に溶解
し、10% PO-C 70 mg を加えて常圧下12時間経過後
元する。油状を留去後、残液を留去し、1.01 g
(91%) の無色油状物を得た。

NMR(CDCl₃) δ2.68 (t, 2H), 3.00 (t, 2H), 3.68 (s, 3H),
7.20 ~ 7.10 (m, 9H)

工程3

3' - (4-ビフェニル) - 1-ブロバロール
水冷下、水素化アルミニウムリチウム 110 mg
(2.90 ミリモル) をエーテル 10 mL に溶解した中へ
メチル - 3 - (4-ビフェニル) プロピオネート
1.01 g (4.20 ミリモル) をエーテル 35 mL に溶解し
たものを滴下する。同温度で1時間反応後、過剰
の試薬を水で分解し、粗結晶を精別、精純を施す後、
結晶し、861 mg (96%) の無色結晶を得た。

NMR(CDCl₃) δ1.56 (br, 1H), 1.94 (m, 2H), 2.77 (m, 2H),
3.71 (m, 2H), 7.15 ~ 7.16 (m, 9H)

工程4

3-(4-ビフェニル)-1-ブロモプロパン
3-(4-ビフェニル)-1-ブロバノール
(19 mg (2.00ミリモル) とトリフェニルホスフィン629 mg (2.40ミリモル) をエーテル10 mlに溶解し氷冷下四員化炭素930 mg (2.80ミリモル) を数回に分けて加える。室温下1時間搅拌した後、沈殿物をfiltrationし、滤液を減圧し残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出浴槽:ヘキサン)で精製し506 mg (92%) の無色油状物を得た。

NMR(CD₃OD) δ

2.20 (quin, 2H), 2.83 (t, 2H), 3.64 (t, 2H),
1.23~7.65 (m, 9H)

工程5

N-(3-(4-ビフェニル)プロピル)-1-デオキシノグリマイシン
3-(4-ビフェニル)-1-ブロモプロパン140 mg (0.50ミリモル) と1-デオキシノグリマイシン82 mg (0.5ミリモル) をジメチルホルムアミド1 mlに溶解し、炭酸カリウム136 mg (1.00ミリモル) を加え、室温下1時間搅拌した後、沈殿物をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出浴槽:ヘキサン)で精製し、181 mg (65%) の無色油状物を得た。

製造例8

N-(3-シクロヘキシルプロピル)-1-デオキシノグリマイシン
製造例6と同様に合成した。

NMR(CD₃OD) δ

0.75~1.08 (m, 2H), 1.08~1.45 (m, 1H),
1.45~2.00 (m, 6H), 2.10~3.83 (m, 8H),
4.00 (ABX type, 2H)

製造例9

N-(フェニル-2-ブロピニル)-1-デオキシノグリマイシン
工程1

1-フェニル-3-ブロモプロピン
1-フェニル-2-ブロビン-1-オール660 mg (5.00ミリモル) と四員化炭素4.98 g (15.0ミリモル) をテトラヒドロフラン30 mlに溶解し、氷冷下トリフェニルホスフィン2.62 g (10.0ミリモル) を数回に分けて加える。室温下10時間搅拌後、固体をfiltrationし、滤液を減圧する。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出浴槽:ヘキサン)

リモル) を加え、80℃、4時間加热した。反応混合物を水に注いで塩酸酸性としエーテルにて洗浄、水層をアンモニアアルカリとし、n-ブタノールで抽出する。抽出を除去した後、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出浴槽:クロロカルム-メタノール(10:1))で精製し17 mg (66%) の固体を得た。

NMR(CD₃OD) δ

1.86 (a, 2H), 2.20 (br, 2H), 2.65 (a, 3H),
2.89 (a, 1H), 3.00 (a, 1H), 3.14 (t, 1H),
3.47 (a, 1H), 3.84 (d, 2H), 7.15~7.65 (a, 9H)

製造例7

N-(3-(4-フロロフェニル)プロピル)-1-デオキシノグリマイシン
製造例6と同様に合成した。

NMR(CD₃OD) δ

1.38 (a, 2H), 2.05~2.22 (m, 2H), 2.64 (a, 2H),
2.98 (dd, 1H), 3.13 (t, 1H), 3.30 (a, 1H),
3.38 (t, 1H), 3.45 (a, 1H),
3.64 (a, 1H), 3.85 (a, 2H), 7.18~7.35 (a, 4H)

ン) で精製し、181 mg (65%) の無色油状物を得た。

NMR(CD₃OD) δ

1.20 (br, 1H), 2.27 (s, 1H), 7.15~7.40 (a, 5H)

工程2

N-(フェニル-2-ブロピニル)-1-デオキシノグリマイシン
1-デオキシノグリマイシン163 mg (1.00ミリモル) と1-フェニル-3-ブロモプロピン215 mg (1.10ミリモル) をジメチルホルムアミド3 mlに溶解し、炭酸カリウム166 mg (1.20ミリモル) を加え、室温下8時間搅拌する。反応混合物を水に注いで塩酸酸性としエーテルにて洗浄、水層をアンモニアアルカリとし、n-ブタノールで抽出する。抽出を除去した後、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出浴槽:クロロカルム-メタノール(10:1))で精製し、181 mg (65%) の固体を得た。

NMR(CD₃OD) δ

2.31 (a, 1H), 2.57 (t, 1H), 2.98 (dd, 1H),

3.19(t, 1H), 3.50(t, 1H), 3.61(o, 1H),
3.82(ABX type, 2H), 3.98(dd, 2H)

製造例10

N-(2, 3-ジヒドロキシ)-3-フェニルプロピル)-1-デオキシノジリマイシン

工段1

N-(3-フェニル-2-プロペニル)-1-デオキシノジリマイシンテトラセテート

シンナイルブロミド1.42g (7.20ミリモル) と
1-デオキシノジリマイシン978mg (6.00ミリモル) をジメチルホルムアミド10mlに溶解し、溴酸
カリウム996mg (7.20ミリモル) を加えて、4時間、
60~65℃に加熱する。冷後、塩化メチレン3mlで
抽出し、無水硫酸3.06g (30.0ミリモル) と
ビリゾン2.31g (30.0ミリモル) を加えて室温下
15時間反応する。反応液を酢酸エチル150mlで
抽出し、塩和炭酸水素ナトリウム、水で順次洗浄、
乾燥後、溶媒を留去する。残渣をシリカゲルカラム
クロマトグラフィー〔溶出浴媒：ヘキサン-酢
酸エチル(3:1)〕で精製し、2.12g (81%)

収：ヘキサン-酢酸エチル(1:1)で精製し、
222mg (68%) のカラメルを得た。この化合物は
2種の立体異性体の混合物(2:1)である。

IR(CDCl₃) δ

2.32(dd), 2.57(dd), 2.70(ABX type), 2.85(dd),
2.91(o), 3.11(s), 3.12(dd), 3.16(s), 3.22(dd),
3.82(br), 4.13(ABX type), 4.20(ABX type),
4.48(t), 4.53(t), 4.86~5.12(o),
7.2~7.4(o, SH)

工段3

N-(2, 3-ジヒドロキシ)-3-フェニルプロピル)-1-デオキシノジリマイシン

N-(2, 3-ジヒドロキシ)-3-フェニルプロピル)-1-デオキシノジリマイシンテトラセテート196mg (0.42ミリモル) をメタノール5mlに溶解し、溴酸カリウム3mlを加えて室温
下3時間反応する。溶液を留去した後、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー〔溶出浴媒：
タロコカルム-メタノール(3:1)〕で精製し
128mg (98%) の無色カラメルを得た。この化合

の結晶を得た。

IR(CDCl₃) δ

2.01(s, 6H), 2.03(s, 3H), 2.09(s, 3H),
2.38(dd, 1H), 2.70(dt, 1H), 3.25(dd, 1H),
3.38(dd, 1H), 3.59(ddd, 1H), 4.19(dd, 1H),
4.32(dd, 1H), 4.90~5.20(m, 3H), 6.22(dt, 1H)
6.56(d, 1H), 7.15~7.50(o, SH)

工段2

N-(2, 3-ジヒドロキシ)-3-フェニルプロピル)-1-デオキシノジリマイシンテトラセテート

N-(3-フェニル-2-プロペニル)-1-デオキシノジリマイシンテトラセテート305mg
(0.70ミリモル) とN-メチルセルロース-N-
オキシド98mg (0.84ミリモル) を50%アセトン8ml
に溶解し、四塩化オスミウム2mlを加え2時間
反応する。亞硫酸ナトリウム250mg、水3mlを加
えて1時間反応した後、水30mlで希釈し酢酸エチ
ルで抽出、水洗、乾燥後、溶媒を留去する。残渣
をシリカゲルカラムクロマトグラフィー〔溶出浴

物は2種の立体異性体の混合物(2:1)である。

IR(CD₃OD) δ

2.05(dd), 2.17(dd), 2.23~2.35(o), 2.54(dd),
2.87(dd), 2.98(dd), 3.10(t), 3.14(t),
3.2~4.0(o), 4.50(d), 4.68(d),
7.15~7.50(o, SH).

次に本発明のN-四塩一デオキシノジリマイシン
誘導体の癌細胞殺傷作用の評価結果を示す。

効果試験

試験法

マウスの腫瘍細胞であるマタノーマB16株より
フィドラー(Fidler)の方法(Method in Cancer
Research, 15, 339-439, 1978)をもとにB16高
度株細胞を退済し、使用した。転移抑制作用の評価は
キジースダ(Kijisa-Soda)等の方法(Proc.,
Natl. Acad. Sci., U.S.A., 83, 1752-1756,
1986; Cancer Research, 46, 858-862, 1986.)を
もとにして行った。まずB16高転移株を牛胎児血
液を加えたダルベコMEM培地(DMEM培地)に植
え、一般式(1)で表されるN-四塩一デオ

キノクリマイシンを加え、2~4日間、5%CO₂の存在下37℃で培養し、培養した細胞をトリプシン-EDTA液で培養容器より剥がし。この細胞をCa⁺⁺とMg⁺⁺を含まないダルベッカの平衡塩液にて生細胞として1ml当たり1×10⁶細胞になるように懸滴した。

この懸滴液の0.1mlをマウス尾静脈中に注入し細胞を移植し14日間飼育した後、開腹して肺を摘出し、肺表面及び内部に形成されたB16高伝移株の転移結節数を数え、薬剤処理をしなかった对照と比較した。

試験例1 細胞障害性

B16高伝移株を10%牛胎児血清を加えたDME培地で5%CO₂の存在下37℃で培養し、トリプシン-EDTA液で培養容器より剥がし、1ml当たり1×10⁶細胞になるように懸滴した。この懸滴液の1/50mlを被検薬あるいは対照薬液50μlとそれぞれ加え混合した。この後、4日間培養し、倒立顕微鏡下で生死を観察し、細胞障害性を判定した。その結果は表1の通りであった。

の平衡塩液で生細胞として1ml当たり1×10⁶細胞になるように懸滴し、その0.1mlをBDP、マウス(8週令、雄)の尾静脈に注入し、細胞を移植した。14日間飼育観察後、開腹して肺を摘出し、肺表面及び内部に形成されたB16高伝移株の転移結節数を数えた。その結果を表2に示した。

表 2

添加薬剤	肺転移結節数(平均±標準偏差)
無添加	207±47
製造例化合物9 (30 μg/ml)	96±29
製造例化合物10 (30 μg/ml)	60±18
製造例化合物7 (30 μg/ml)	18±7

以上の結果より本発明の化合物の処理で肺に形成される転移結節数は大きく減少した。

本発明の癌細胞転移阻害剤は、上記のN-置換-1-デオキシノクリマイシン誘導体を含有する経口、非経口剤とし臨床的に静脈、動脈、皮膚、皮下、皮内、直腸及び筋肉内を経由又は経口にて投与される。また腫瘍に直接投与することにより、より強い効果が期待できる。投与量は投与形態、

表 1

B16高伝移株		
添加薬剤	濃度	生存
無添加		+
製造例化合物9	10 μg/ml	+
	30 μg/ml	+
	100 μg/ml	+
製造例化合物10	10 μg/ml	+
	30 μg/ml	+
	100 μg/ml	+
製造例化合物7	10 μg/ml	+
	30 μg/ml	+
	100 μg/ml	+
アドリアマイシン(対照)	0.1 μg/ml	-

表中+は生存、-は死故を表す。

以上の試験結果より本発明の化合物はB16高伝移株に対して細胞障害性を示さなかった。

試験例2 肝転移作用

B16高伝移株を10%牛胎児血清を加えたDME培地に投入し、被検薬を1ml当たりそれぞれ30μg加え、5%CO₂の存在下37℃で3日間培養した。試験例1と同様の方法で細胞を培養容器より剥がした。この細胞をCa⁺⁺とMg⁺⁺を含まないダルベッカ

の平衡塩液で生細胞として1ml当たり1×10⁶細胞になるように懸滴し、その0.1mlをBDP、マウス(8週令、雄)の尾静脈に注入し、細胞を移植した。14日間飼育観察後、開腹して肺を摘出し、肺表面及び内部に形成されたB16高伝移株の転移結節数を数えた。その結果は表2に示した。

前型あるいは患者の年齢、体质、病歴により異なるが、概ね1日100~3000mgを1回又は数回投与する。

非経口剤としては、既に水性又は非水性の液剤あるいは乳化剤が挙げられる。非水性の液剤又は乳化剤の添剤としては、プロピレングリコール、ポリエチレングリコール、グリセリン、オリーブ油、とうもろこし油、オレイン酸エチル等が挙げられる。

また、経口剤としては、カプセル剤、錠剤、顆粒剤、散剤等が挙げられる。

これらの錠剤に賦形剤として、澱粉、乳糖、マニュート、エチルセルロース、ナトリウムカルガミンメチルセルロース等が配合され、滑潤剤としてステアリン酸マグネシウム又はステアリン酸カルシウムを添加する。結合剤としては、ゼラチン、アラビアゴム、セルロースエステル、ポリビニルピロリドン等が用いられる。

次に本発明の製剤例について説明する。

(実施例)

である。

N-[3-(4-フロロフェニル)-2-プロペニル]-1-

デオキシノグリマイシン	200	g
乳酸	130	g
ジャガイモ澱粉	70	g
ポリビニルピロリドン	10	g
ステアリン酸マグネシウム	2.5	g

乳酸及びジャガイモ澱粉を混合し、これにポリビニルピロリドンの20%エタノール溶液を加え、均一に溶解させ、1ccの糊目のふるいを通して、45℃にて乾燥させ、再度1ccの糊目のふるいを通して。こうして得られた糊液をステアリン酸マグネシウムと混合し試料に成型した。

(発明の結果)

本発明は癌細胞の移乗剤作用を有する極めて有用な物質である。そして、この物質を有効成分とした癌細胞の移乗剤は、現在この防止手段が殆ど無く、癌治療中の予後を左右する最大の問題である癌細胞の転移を解決した極めて有用な発明

特許出願人

明治製薬株式会社

代理人

小畠益(ほか1名)

第1頁の統計

⑦発明者 鈴岡 崇士	神奈川県横浜市港北区鷺岡町760 明治製薬株式会社中央研究所内
⑦発明者 山本 治夫	神奈川県横浜市港北区鷺岡町760 明治製薬株式会社中央研究所内
⑦発明者 福安 春海	神奈川県横浜市港北区鷺岡町760 明治製薬株式会社中央研究所内

手 続 補 正 書

平成元年10月27日 

特許庁長官 吉田 文毅 殿

1. 事件の表示

平成1年 特許 第127499号

2. 発明の名称 新規N-置換-1-デオキシノジライシン
誘導体及びそれを含有する癌細胞増殖抑制剤

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

氏名 (609) 明治製薬株式会社

4. 代理人

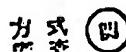
住所 ⑨ 812 福岡市博多区博多駅前1丁目1-1
博多新三井ビル☎092-451-8781

氏名 (8216) 井理士 小畠 益

5. 補正の対象

明細書

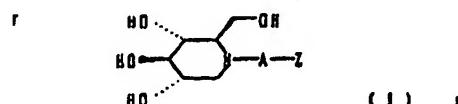
6. 補正の内容



Sの炭化水素基を表し、この炭化水素基は二重又は三重結合を有していてもよい、Zはフェニル基、フッ素置換フェニル基、ビフェニル基、シクロアルキル基又はハロゲン置換アルキル基を表す。

で示されるN-置換-1-デオキシノジライシン誘導体又はその誘導的に許容される誘導体の付加塩を有効成分とすることを特徴とする癌細胞増殖抑制剤。」

(1) 明細書第4頁の式(1)を下記の通り補正する。



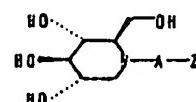
(2) 明細書第3頁第12~14行「使って、この...
・種類である。」を下記の通り補正する。

「使って、現行の癌治療の有効性は癌細胞の生存率を抑制することで、さらに高められることが期待される。」

(3) 明細書第15頁下から第8行「ケニル化試剤と

(1) 特許請求の範囲を下記の通り補正する。

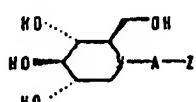
1. 式



式中、Aは水酸基、ハロゲン化アルキル基又はアルコキシ基で置換されてもよい炭素数3乃至5の炭化水素基を表し、この炭化水素基は二重又は三重結合を有していてもよい、Zはフェニル基、フッ素置換フェニル基、ビフェニル基、シクロアルキル基、又はハロゲン置換アルキル基を表す。

で示されるN-置換-1-デオキシノジライシン誘導体。

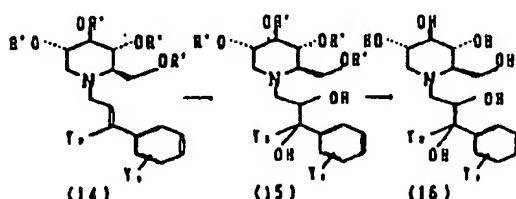
2. 式



式中、Aは水酸基、ハロゲン化アルキル基、アルコキシ基で置換されてもよい炭素数3乃至

各種アルコール類」を「ケニル化試剤と1-デオキシノジライシンを各種アルコール類」に補正する。

(2) 明細書第16頁の式(14)、(15)、(16)を下記の通り補正する。



JP 2306962
(English Translation) 1

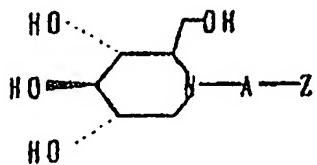
DESCRIPTION

1. TITLE OF THE INVENTION

NOVEL N-SUBSTITUTED-1-DEOXYNOJIRIMYCIN DERIVATIVE AND
CANCER CELL ANTIMETASTATIC AGENT INCLUDING THE SAME

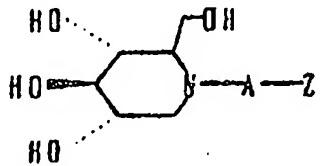
2. PATENT CLAIMS

1. An N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative represented by the following formula,



wherein A represents a hydrocarbon group of 3 to 5 carbon atoms optionally substituted with hydroxyl, alkyl halide or alkoxy group, the hydrocarbon group optionally comprising a double or triple bond, and Z represents phenyl, fluorinated phenyl, biphenyl, cycloalkyl or halogenated alkyl group.

2. A cancer cell antimetastatic agent characterized by an active ingredient which is an N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative represented by the following formula or an addition salt thereof with a pharmaceutically acceptable acid,



wherein A represents a hydrocarbon group of 3 to 5 carbon atoms optionally substituted with hydroxyl, alkyl halide or alkoxy group, the hydrocarbon group optionally comprising a double or triple bond, and Z represents phenyl, fluorinated phenyl, biphenyl, cycloalkyl or halogenated alkyl group.

3. DETAILED DESCRIPTION OF THE INVENTION

[Industrial Field of Application]

The present invention relates to a novel N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative which inhibits formation of cancer cell metastases and a cancer cell antimetastatic agent containing the same as the active ingredient.

[Conventional Technique]

Various anticancer agents are currently in use. Majority of them are drugs which kill cancer cells or let human immune system destroy them, but a drug effective for fundamental treatment of cancers has not been obtained yet.

Solid cancers, to which chemotherapeutic agents have low effectiveness, are treated with physical therapies

such as surgery or radiotherapy, and the success rate is greatly improved from a viewpoint of removing primary cancer. It is however also true that metastases of cancer cells are induced on the other side.

[Problem to be Solved by the Invention]

As described above, metastasis of cancer cells are the biggest problem in conventional cancer treatments which affects prognosis of patients with cancer.

Therefore, it is currently desired the most to develop an anticancer agent which can enhance suppression of cancer cell metastasis.

In order to achieve the above object, it is the purpose of the present invention to provide a substance which effectively suppresses cancer cell metastases and a cancer cell antimetastatic agent containing the same as the active ingredient.

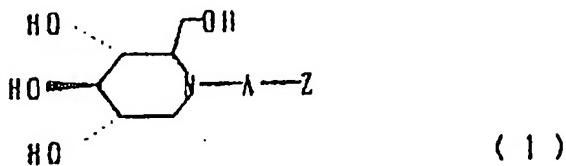
[Means for Solving the Problem]

The present inventors found N-substituted-1-deoxyojirimycin derivatives having a cancer cell antimetastatic effect prior to the present invention, and disclosed them in Japanese patent application publication Nos. Sho63-31095, Sho63-93673, Sho63-97454, Sho63-104850, Sho63-147815 and Sho63-147816.

The present inventors further synthesized novel N-

substituted derivatives of 1-deoxynojirimycin and broadly evaluated them, and then found a group of novel compounds having a strong cancer cell antimetastatic effect. The present invention has been thus accomplished.

The present invention is an N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative represented by formula 1, and a cancer cell antimetastatic agent containing the compound or the addition salt thereof with a pharmaceutically acceptable acid as the active ingredient,



wherein A represents a hydrocarbon group of 3 to 5 carbon atoms optionally substituted with hydroxyl, alkyl halide or alkoxy group, the hydrocarbon group optionally comprising a double or triple bond, and Z represents phenyl, fluorinated phenyl, biphenyl, cycloalkyl or halogenated alkyl group.

The N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative shown by formula 1 of the present invention is a novel substance which has not ever described in documents.

The following substances are examples of the compounds included in the novel N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative:

N-(3-methoxymethyl-3-phenyl-2-propenyl)-1-

deoxynojirimycin,

N-(3-phenyl-3-trifluoromethyl-2-propenyl)-1-

deoxynojirimycin,

N-[3-(4-fluorophenyl)-2-propenyl]-1-deoxynojirimycin,

N-[3[(3-fluorophenyl)-2-propenyl]-1-deoxynojirimycin,

N-[3[(2-fluorophenyl)-2-propenyl]-1-deoxynojirimycin,

N-[3-(4-biphenylpropyl)]-1-deoxynojirimycin,

N-[3-(4-fluorophenyl)-propyl]-1-deoxynojirimycin,

N-(3-cyclohexylpropyl)-1-deoxynojirimycin,

N-(3-phenyl-2-propynyl)-1-deoxynojirimycin,

N-(2,3-dihydroxy-3-phenylpropenyl)-1-deoxynojirimycin,

N-(6,6,6-trifluorohexyl)-1-deoxynojirimycin,

N-(5,5,5-trifluoropentyl)-1-deoxynojirimycin, and

N-(4,4,4-trifluorobutyl)-1-deoxynojirimycin.

When the N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative of the present invention is used as a cancer cell antimetastatic agent, the pharmaceutically acceptable acid addition salt thereof includes addition salts of: inorganic acids such as hydrochloric acid, hydrobromic acid, sulfuric acid, nitric acid and phosphoric acid; organic acids such as formic acid, acetic acid, propionic acid, succinic acid, glycolic acid, lactic acid, malic acid, tartaric acid, citric acid, maleic acid, fumaric acid, benzoic acid, salicylic acid and methanesulfonic acid; and also amino acids such as asparaginic acid and glutamic acid.

All compounds of the present invention are novel compounds which have not ever described in documents. According to the most general synthesis method thereof, 1-deoxynojirimycin (see Tetrahedron, 24, 2125(1968)) is used as the raw material, which is obtained by reducing nojirimycin- (5-amino-5-deoxy-D-glucopyranose) (see Japanese patent application publication No. Sho43-760) which is a metabolite of an actinomycete found by the present inventors. Specifically, the N-substituted A-Z group of formula 1 of the present invention may be introduced by heating or leaving at room temperature 1-deoxynojirimycin with an aralkyl- or aralkenylation agent typrified by aralkyl halide or alkenyl halide, aralkylsulfonate ester or aralkenylsulfonate ester, etc. in polar solvent such as alcohols, dimethylformamide, dimethylacetamide; dimethylsulfoxide, sulfolane and the mixture thereof in the presence of a deoxidizing agent such as alkali hydroxide, alkali carbonate, alkali bicarbonate, suitable organic amines, etc. It is also possible to employ a method such that the raw material is 1-deoxynojirimycin whose hydroxyl group is protected by a suitable protecting group, for example acetyl, benzoyl, tetrahydropyranyl, t-butyldimethylsilyl, or the like, and is subjected to the N-substitution reaction followed by deprotection. Furthermore, also available are: a method to carry out so-called reductive alkylation by use of an

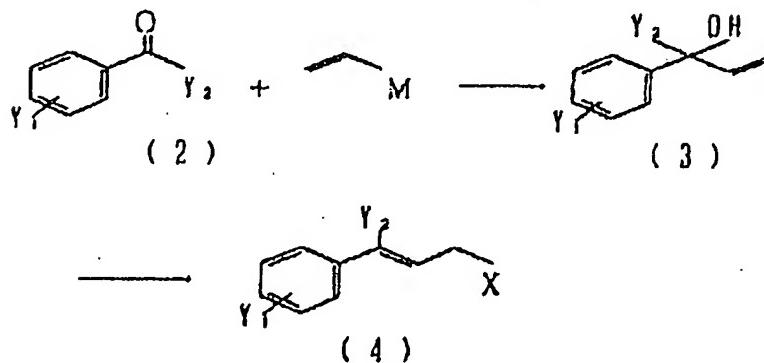
agent with carbonyl group as an reactive agent in hydrogen atmosphere under a reductive condition, for example conditions in the presence of formic acid, sodium cyanoborohydride, sodium borohydride or a suitable metal catalyst of platinum oxide, palladium or Raney nickel; and a method to obtain an objective product by reducing an amide compound of 1-deoxynojirimycin with aralkylcarbonic acid or aralkenylcarbonic acid. According to need, these compounds are subjected to a general purification procedure such as recrystallization, column chromatography, etc., so as to obtain the compound of formula 1 of the present invention.

The substitution group of the compound of the present invention may be formed and introduced by any method suitable for the purpose. The following five production methods are given as suitable methods to produce an aralkyl-, aralkenyl- or aralkynylation agent for constructing the A-Z group of formula 1.

[Production Method 1]

Compound 3 may be synthesized by the reaction of compound 2 with a vinyl-metal compound, for example vinylmagnesium chloride, divinylmagnesium bromide, vinylmagnesium iodide, vinyllithium, divinylzinc, divinylcopper, divinylcesium, or the like, in nonpolar solvent, preferably in ether, tetrahydrofuran or dioxane, at -50°C to room temperature for 10 minutes to 24 hours.

Compound 4 may be synthesized by the reaction of compound 3 with hydrochloric acid, hydrobromic acid, oxalyl chloride, thionyl halide, oxyphosphorus halide, phosphorus trihalide, phosphorus pentahalide, tri-substituted phosphine-carbon tetrahalide, allyl- or alkylsulfonyl halide without solvent or in solvent such as benzene, toluene, ether, methylene chloride, acetonitrile, etc. at 0°C to 100°C for 30 minutes to 24 hours, the reaction being accompanied with transfer of the allylalcohol part of compound 3.



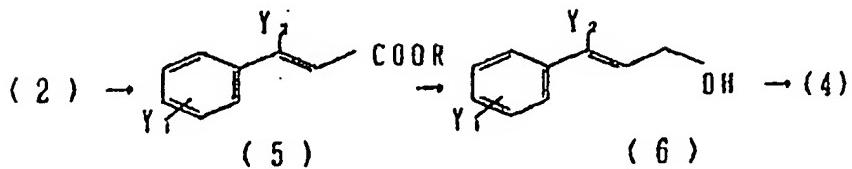
In the formula, Y_1 represents hydrogen atom, halogen atom, aralkyl or hydroxyl group, Y_2 represents hydrogen atom, halogen atom, aralkyl, alkoxy or halogen-substituted alkyl group, X represents halogen atom or alkyl- or allylsulfonyloxy group. The halogen atom denotes chlorine, bromine, iodine atom, etc., and the alkyl- or allylsulfonyloxy group denotes methane sulfonyloxy, trifluoromethane sulfonyloxy, p-toluene sulfonyloxy group, etc. M represents mono- or divalent metal or the salt

thereof, and the metal denotes lithium, sodium, potassium, magnesium, zinc, cesium or copper.

[Production Method 2]

Unsaturated ester 5 is synthesized by the reaction of compound 2 with carboalkoxymethylene tri-substituted phosphorane in suitable solvent, preferably benzene, toluene, ether, tetrahydrofuran, dioxane, methylene chloride, chloroform, methanol and ethanol, at 0°C to 60°C for 10 minutes to 24 hours, or with diaralkylphosphonoacetic acid aralkylester in the presence of a suitable base, for example sodium hydride, potassium hydride, alkali hydride or alkali carbonate, at 0°C to 60°C for 10 minutes to 24 hours. Compound 6 may be synthesized by the reaction of compound 5 with a suitable metal hydride complex reductant, preferably lithium aluminum hydride, diisobutylaluminum hydride, sodium bis(2-methoxyethoxy)aluminum hydride, or the like, in suitable aprotic solvent, preferably ether, tetrahydrofuran or dioxane, at -78°C to -100°C for 30 minutes to 18 hours. Compound 4 may be synthesized by the reaction of compound 6 with hydrochloric acid, hydrobromic acid, oxallyl chloride, thionyl halide, phosphorus trihalide, phosphorus pentahalide, tri-substituted phosphine-carbon tetrahalide, allyl- or alkylsulfonyl halide without solvent or in solvent such as benzene, toluene, ether, methylene chloride, acetonitrile etc. at 0°C to 100°C for 30 minutes

to 24 hours.

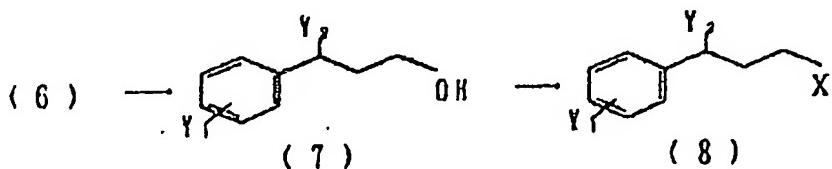


In the formula, Y_1 and Y_2 represent the same as above, and R represents a protection group of carboxyl such as alkyl.

[Production Method 3]

Saturated alcohol 7 may be synthesized by the reduction of alkenylalcohol 6 obtained in production method 2 in the presence of a metal catalyst, for example palladium-carbon, platinum, Raney nickel, or the like, in suitable organic solvent, for example methanol, ethanol, acetic acid, tetrahydrofuran, ethyl acetate, or the like, in hydrogen atmosphere for 30 minutes to 24 hours.

Compound 8 may be synthesized by the reaction of compound 7 in solvent such as hydrobromic acid, oxalyl chloride, thionyl halide, phosphorous oxyhalide, phosphorous trihalide, phosphorous pentahalide, tri-substituted phosphine-carbon tetrahalide, allyl- or alkylsulfonyl halide, etc. at 0°C to 100°C for 30 minutes to 24 hours.

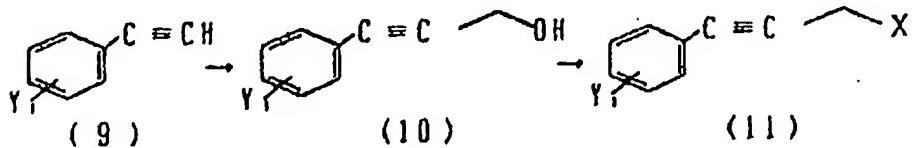


In the formula, Y_1 , Y_2 and X represent the same as

above.

[Production Method 4]

Alkynylalcohol 10 may be synthesized by acetylidation of 1-allylacetylene derivative 9 with a suitable base, for example n-butyllithium, lithium diisopropylamide, sodium amide or the like, followed by reaction with formalin. Compound 11 may be synthesized by the reaction of compound 10 with oxalyl chloride, thionyl halide, phosphorous oxyhalide, phosphorous trihalide, phosphorous pentahalide, tri-substituted phosphine-carbon tetrahalide or allyl- or alkylsulfonyl halide without solvent or in solvent such as benzene, toluene, ether, methylene chloride, acetonitrile, etc. at 0°C to 100°C for 30 minutes to 24 hours.



In the formula, Y1, Y2 and X represent the same as above.

[Production Method 5]

As a production method of a terminally halogenated alkylation agent, for example, a trifluoromethyl derivative 13 may be synthesized by treating ω -halogenated fatty acid 12 with a suitable fluorinating agent, for example sulfur tetrafluoride (Angew. Chem. Internat. Ed., 1, 467 (1962)).



(12) (13)

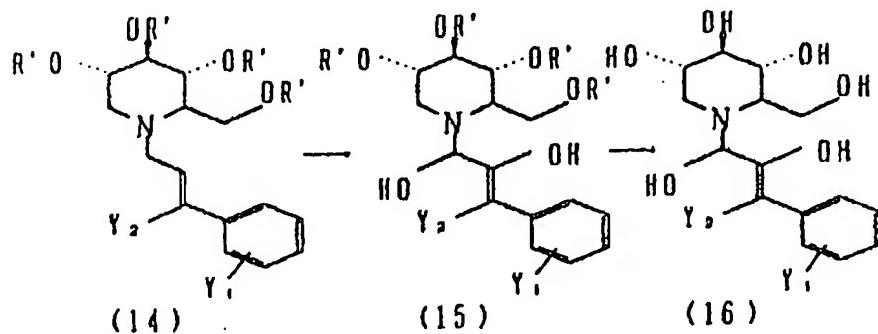
In the formula, X represents the same as above.

The N-substituted A-Z group of the compound of formula 1 in the present invention may be introduced by heating or leaving at room temperature with an aralkyl- or aralkenylation agent typified by the aralkyl halide or aralkenyl halide produced by the above production methods 1 to 5 and aralkylsulfonate ester or aralkenylsulfonate ester in polar solvent such as alcohols, dimethylformamide, dimethylacetamide, dimethylsulfoxide, sulfolane, etc. or the mixture thereof in the presence of a deoxidizing agent such as alkali hydroxide, alkali carbonate, alkali bicarbonate or suitable organic amines. It is also possible to employ a method such that the raw material is 1-deoxynojirimycin whose hydroxyl is protected by a suitable protecting group, for example acetyl, benzoyl, tetrahydropyranyl, t-butyldimethylsilyl, or the like, and N-substitution reaction is carried out followed by deprotection. Among the compounds included in the present invention, the ones of formula 1 where A is a hydroxyl-substituted hydrocarbon may be produced according to the following production method 6.

[Production method 6]

Objective product 16 may be obtained by the reaction

of N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative 14, which may be synthesized by the reaction of the alkenylation agent synthesized according to production method 1 or 2 with 1-deoxynojirimycin or 1-deoxynojirimycin with protected hydroxyl, with a suitable oxidization agent, for example osmium tetroxide, or the like.



In the formula, Y₁ and Y₂ represent the same as above, R' represents hydrogen atom, acetyl, benzil, benzoyl, pivaloyl, t-butyldimethylsilyl or tetrahydropyranyl group.

Next, production examples of the N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative of the present invention are shown.

[Production Example 1]:

N- (3-phenyl-3-trifluoromethyl-2-propenyl)-1-deoxynojirimycin

[Step 1]:

3-phenyl-3-trifluoromethyl-2-propene-1-ol

A solution of 1.74 g (10.0 mmol) 2,2,2-trifluoroacetofenone, which was dissolved in 10 ml of

tetrahydrofuran, was cooled to -78°C, and 1M vinylmagnesiumbromide solution in tetrahydrofuran was added dropwise. Following to the addition, the solution was stirred for 3 hours, and further for 1 hour without the cool bath. Water was added to decompose excess reagent in ice bath, and the solvent was then distilled away. 10 ml of 2N sulfuric acid was added to the residue, and extraction was carried out with ethyl acetate. The extract was washed with water, dried and then concentrated. The residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: ether-hexane (1:10)), so as to obtain 1.66 g (82%) of oily product.

NMR (CDCl_3) δ

2.61 (s, 1H), 5.52 (d, 1H), 5.62 (d, 1H),
6.43 (dd, 1H), 7.25-7.70 (m, 5H)

[Step 2] :

1-bromo-3-phenyl-3-trifluoromethyl-2-propene

606 mg (3.00 mmol) of 3-phenyl-3-trifluoromethyl-2-propene-1-ol and 943 mg (3.60 mmol) of triphenylphosphine were dissolved in 4 ml of acetonitrile and cooled in ice bath. 1.26 g (3.80 mmol) of carbon tetrabromide was then added in several parts. The solution was stirred for 1 hour in ice bath, and then further stirred overnight at room temperature. The reaction was diluted with 10 ml of ether, deposited solid was filtered off, and the filtrate was concentrated. The obtained residue was purified with

silica gel column chromatography (eluting solvent: hexane), so as to obtain 440 mg (55%) of oily product.

NMR (CDCl_3) δ

3.80 (dq, 2H), 8.62 (tq, 1H), 7.20-7.60 (m, 5H)

[Step 3]:

N-(3-phenyl-3-trifluoromethyl-2-propenyl)-1-deoxynojirimycin

163 mg (1.00 mmol) of deoxynojirimycin and 318 mg (1.20 mmol) of 1-bromo-3-phenyl-3-trifluoromethyl-2-propene were dissolved in 5 ml of dimethylformamide. 207 mg (1.50 mmol) of potassium carbonate was added and the solution was stirred for 8 hours at room temperature.

Saturated salt solution was added to the reaction mixture, and extraction was carried out with n-butanol. The extract was concentrated under reduced pressure, and the residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: chloroform-methanol (10:1)), so as to obtain 311 mg (90%) of colorless solid product.

NMR (CD_3OD) δ

2.15 (m, 2H), 3.10 (dd, 1H), 3.16 (t, 1H),
3.31 (m, 1H), 3.42 (t, 1H), 3.53 (m, 1H),
3.78 (dd, 1H), 3.96 (ABX type, 2H),
6.72 (t, 1H), 7.32 (m, 2H), 7.46 (m, 3H)

[Production Example 2]:

N-(3-metoxyethyl-3-phenyl-2-propenyl)-1-deoxynojirimycin

The synthesis was carried out by use of 1-bromo-3-

methoxymethyl-3-phenyl-2-propene which was synthesized in the same manner as production method 1.

NMR (CD₃OD) δ

2.13 (m, 2H), 3.06 (dd, 1H), 3.16 (t, 1H),
3.34 (m, 1H), 3.44 (t, 1H), 3.31 (m, 1H),
3.38 (s, 3H), 3.76 (dd, 1H),
3.97 (ABX type, 2H), 4.16 (s, 2H),
6.06 (t, 1H), 7.15-7.50 (m, 5H)

[Production example 3]:

N-[3-(4-fluorophenyl)-2-propenyl]-1-deoxynojirimycin

[Step 1]:

Methyl-3-(4-fluorophenyl)-2-propenoate

1.24 g (10.0 mmol) of 4-fluorobenzaldehyde was dissolved in 20 ml of methylene chloride. 3.67 g (11.0 mmol) of carbomethoxymethylenetriphenylphosphorane was added, and the mixture was stirred for 3 hours at room temperature. Solid was filtered off, the filtrate was concentrated, and the residue was purified with silica gel chromatography (eluting solvent: ethyl acetate-hexane (1:4)), so as to obtain 1.61 g (90%) of colorless needle crystal.

NMR (CDCl₃) δ

4.30 (d, 2H), 6.25 (m, 1H), 6.55 (d, 1H),
6.95 (m, 2H), 7.35 (m, 2H)

[Step 2]:

3-(4-fluorophenyl)-2-propene-1-ol)

1.61 g (9.00 mmol) of methyl-3-(4-fluorophenyl)-2-propenoate was dissolved to 50 ml of ether, and the solution was dropwise added to 205 mg (5.40 mmol) of lithium aluminum hydride suspended in 3 ml of ether in ice bath. Stirring for 30 min at room temperature after the addition, excess reagent was then decomposed with water, and solid was filtered off. The filtrate was concentrated, so as to obtain 1.33 g (97%) of 3-(4-fluorophenyl)-2-propene-1-ol.

NMR (CDCl_3) δ

4.52 (d, 2H), 6.31 (m, 1H), 7.01 (m, 2H),
7.45 (m, 2H)

[Step 3] :

1-bromo-3-(4-fluorophenyl)-2-propene

1.34 g (8.82 mmol) of 3-(4-fluorophenyl)-2-propene-1-ol and 4.26 g (11.5 mmol) of tri-n-octylphosphine was dissolved in 20 ml of ether, and 3.52 g (10.6 mmol) of carbon tetrabromide was added in several parts in ice bath. After stirring for 30 min at room temperature, precipitate was filtered off, the filtrate was concentrated, and the residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: hexane), so as to obtain 1.61 g (85%) of colorless oily product.

NMR (CDCl_3) δ

3.35 (d, 2H), 6.30 (m, 1H), 7.00 (m, 2H),
7.40 (m, 2H)

Mass m/z 214, 216

[Step 4]:

N-[3-(4-fluorophenyl)-2-propenyl]-1-deoxynojirimycin

1.61 g (7.5 mmol) of 1-bromo-3-(4-fluorophenyl)-2-propene and 1.22 g (7.5 mmol) of 1-deoxynojirimycin were dissolved in 10 ml of dimethylformamide. 3.12 g (22.5 mmol) of Potassium carbonate was added and stirred 24 hours at room temperature. Water was added to the reaction mixture, and extraction was carried out with n-butanol. After distilling away the solvent, the residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: chloroform-methanol (10:1)), so as to obtain 1.36 g (61%) of pale yellow solid product.

NMR (CD₃OD) δ

2.4-4.2 (m, 16H), 6.40 (m, 1H), 6.7 (m, 1H),
7.10 (m, 2H), 7.55 (m, 2H)

Mass m/z 298 (FD, M+1)

[Production Example 4]:

N-[3-(3-fluorophenyl)-2-propenyl]-1-deoxynojirimycin

The synthesis was carried out in the same manner as production example 3.

NMR (CD₃OD) δ

2.15 (m, 2H), 3.04 (dd, 1H), 3.14 (t, 1H),
3.2-3.35 (m, 1H), 3.39 (t, 1H),
3.49 (m, 1H), 3.68 (dd, 1H),
3.94 (ABX type, 2H), 6.41 (dt, 1H),

6.59 (d, 1H), 6.95 (dt, 1H), 7.16 (dd, 1H),
7.21 (d, 1H), 7.31 (ddd, 1H)

Mass m/z 298 (FD, M+1)

[Production Example 5]:

N-[3-(2-fluorophenyl)-2-propenyl]-1-deoxynojirimycin

The synthesis was carried out in the same manner as production example 3.

NMR (CD₃OD) δ

2.1-2.25 (m, 2H), 3.06 (dd, 1H),
3.14 (t, 1H), 3.24-3.35 (m, 1H),
3.39 (t, 1H), 3.50 (m, 1H), 3.71 (m, 1H),
3.94 (ABX type, 2H), 6.45 (dt, 1H),
6.72 (d, 1H), 7.0-7.16 (m, 2H),
7.2-7.28 (m, 1H), 7.53 (dt, 1H)

Mass m/z (FD, M+1)

[Production Example 6]:

N-[3-(4-biphenyl)propyl]-1-deoxynojirimycin

[Step 1]:

1.10 g (6.00 mmol) of methyl-3-(4-biphenyl)acrylate-4-biphenylcarboxyaldehyde was dissolved in 20 ml of dichloroethane. 3.03 g (9.10 mmol) of carbomethoxymethylenetriphenylphosphorane was added, and the solution was stirred for 1 hour at room temperature. After distilling away the solvent, the residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: ether-hexane (1:10)), so as to obtain 1.12 g

(78%) of colorless crystal.

NMR (CDCl₃) δ

3.83 (s, 3H), 6.49 (d, 1H), 7.30-7.60 (m, 9H),
7.75 (d, 1H)

[Step 2] :

Methyl-3-(4-biphenyl)propionate

1.40 g (4.40 mmol) of methyl-3-(4-biphenyl)acrylate was dissolved in 50 ml of ethyl acetate. 70 mg of 10% Pd-C was added to carry out catalytic reduction under ambient pressure for 12 hours. After filtering off the catalyst, the solvent was distilled away so as to obtain 1.01 g (97%) of colorless oily product.

NMR (CDCl₃) δ

2.68 (t, 2H), 3.00 (t, 2H), 3.68 (s, 3H),
7.20-7.70 (m, 9H)

[Step 3] :

3'-(4-biphenyl)-1-propanol

To suspension of 110 mg (2.90 mmol) lithium aluminum hydride in 10 ml of ether, solution of 1.01 g (4.20 mmol) of methyl-3-(4-biphenyl)propionate in 35 ml of ether was added dropwise in ice bath. After stirring for 1 hour at the same temperature, excess reagent was decomposed with water, inorganic product was filtered off, and the filtrate was dried and concentrated, so as to obtain 861 mg (96%) of colorless crystal.

NMR (CDCl₃) δ

1.56 (br, 1H), 1.94 (m, 2H), 2.77 (m, 2H),
3.71 (m, 2H), 7.15-7.76 (m, 9H)

[Step 4] :

3-(4-biphenyl)-1-bromopropane

419 mg (2.00 mmol) of 3-(4-biphenyl)-1-propanol and 629 mg (2.40 mmol) of triphenylphosphine was dissolved in 10 ml of ether. 930 mg (2.80 mmol) of carbon tetrabromide was added in ice bath in several parts. After stirring for 1 hour at room temperature, precipitate was filtered off, the filtrate was concentrated, and the residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: hexane), so as to obtain 506 mg (92%) of colorless oily product.

NMR (CDCl_3) δ

2.20 (quin, 2H), 2.83 (t, 2H), 3.44 (t, 2H),
7.23-7.65 (m, 9H)

[Step 5] :

N-[3-(4-biphenyl)propyl]-1-deoxynojirimycin

140 mg (0.50 mmol) of 3-(4-biphenyl)-1-bromopropane and 82 mmol (0.5 mmol) of 1-deoxynojirimycin were dissolved in 1 ml of dimethylformamide. 136 mg (1.00 mmol) of potassium carbonate was added and heated at 80°C for 4 hours. Water was added, and the reaction mixture was acidified with hydrogen chloride and washed with ether. The aqueous phase was alkalized with ammonia, and extraction was carried out with n-butanol. After removing

the solvent, the residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: chloroform-methanol (10:1), so as to obtain 117 mg (66%) of solid product.

NMR (CD₃OD) δ

1.86 (m, 2H), 2.20 (br, 2H), 2.65 (m, 3H),
2.89 (m, 1H), 3.00 (m, 1H), 3.14 (t, 1H),
3.47 (m, 1H), 3.84 (d, 2H), 7.15-7.65 (m, 9H)

[Production Example 7]:

N-[3-(4-fluorophenylpropyl)]-1-deoxynojirimycin

The synthesis was carried out in the same manner as production example 6.

NMR (CD₃OD) δ

1.38 (m, 2H), 2.05-2.22 (m, 2H), 2.64 (m, 2H)
2.98 (dd, 1H), 3.13 (t, 1H), 3.30 (m, 1H),
3.38 (t, 1H), 3.45 (m, 1H),
3.64 (m, 1H), 3.85 (m, 2H), 7.18-7.35 (m, 4H)

[Production Example 8]

N-(3-cyclohexylpropyl)-1-deoxynojirimycin

The synthesis was carried out with the same manner as production example 6.

NMR (CD₃OD) δ

0.75-1.08 (m, 2H), 1.08-1.45 (m, 7H),
1.45-2.00 (m, 6H), 2.70-3.83 (m, 8H),
4.00 (ABX type, 2H)

[Production Example 9]:

N-(phenyl-2-propynyl)-1-deoxynojirimycin

[Step 1]:

1-phenyl-3-bromopropin

660 mg (5.00 mmol) of 1-phenyl-2-propin-1-ol and 4.98 g (15.0 mmol) of carbon tetrabromide were dissolved in 30 ml of tetrahydrofuran. 2.62 g (10.0 mmol) of triphenylphosphine was added thereto in ice bath in several parts. After stirring for 10 hours at room temperature, solid was filtered off and the filtrate was concentrated. The residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: hexane), so as to 181 mg (65%) of colorless oily product.

NMR (CDCl_3) δ

1.20 (br, 1H), 2.27 (s, 1H), 7.15-7.40 (m, 5H)

[Step 2]:

N-(phenyl-2-propynyl)-1-deoxynojirimycin

163 mg (1.00 mmol) of 1-deoxynojirimycin and 215 mg (1.10 mmol) of 1-phenyl-3-bromopropyne were dissolved in 3 ml of dimethylformamide. 166 mg (1.20 mmol) of potassium carbonate was added thereto and stirred for 8 hours at room temperature. Water was added, and the reaction mixture was acidified with hydrogen chloride and washed with ether. The aqueous phase was alkalized with ammonia, and extraction was carried out with n-butanol. After distilling away the solvent, the residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent:

chloroform-methanol (10:1)), so as to obtain 181 mg (65%) of solid product.

NMR (CD₃OD) δ

2.31 (d, 1H), 2.57 (t, 1H), 2.98 (dd, 1H),
3.19 (t, 1H), 3.50 (t, 1H), 3.61 (m, 1H),
3.82 (ABX type, 2H), 3.98 (dd, 2H)

[Production Example 10]:

N-[(2,3-dihydroxy)-3-phenylpropyl]-1-deoxynojirimycin

[Step 1]:

N-(3-phenyl-2-propenyl)-1-deoxynojirimycin tetraacetate

1.42 g (7.20 mmol) of cinnamylbromide and 978 mg (6.00 mmol) of 1-deoxynojirimycin were suspended in 10 ml of dimethylformamide. 996 mg (7.20 mmol) of Potassium carbonate was added and heated at 60 to 65°C for 4 hours. After cooled, the mixture was diluted with 3 ml of methylene chloride. 3.06 g (30.0 mmol) of acetic anhydride and 2.37 g (30.0 mmol) of pyridine were added and stirred for 16 hours at room temperature. The reaction was diluted with 150 ml of ethyl acetate, washed with saturated sodium hydrogen carbonate solution and subsequently with water. After dried, the solvent was then distilled away. The residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: hexane-ethyl acetate (3:1)), so as to obtain 2.12 g (81%) of crystal.

NMR (CDCl₃) δ

2.01 (s, 6H), 2.03 (s, 3H), 2.09 (s, 3H),

2.38 (dd, 1H), 2.70 (dt, 1H), 3.25 (dd, 1H),
3.38 (dd, 1H), 3.59 (ddd, 1H), 4.19 (dd, 1H),
4.32 (dd, 1H), 4.90-5.20 (m, 3H), 6.22 (dt, 1H),
6.56 (d, 1H), 7.15-7.50 (m, 5H)

[Step 2]:

N-[(2,3-dihydroxy)-3-phenylpropyl]-1-deoxynojirimycin
tetraacetate

305 mg (0.70 mmol) of N-(3-phenyl-2-propenyl)-1-deoxynojirimycin tetraacetate and 98 mg (0.84 mmol) of N-methylmorpholine-N-oxide were dissolved in 8 ml of 50% acetone. 2 mg of osmium tetroxide was added and stirred for 2 hours. After adding 250 mg of sodium nitrite and 3 ml of water and stirring for 1 hours, the solution was diluted with 30 ml of water and extraction was carried out with ethyl acetate. After washed with water and dried, the solvent was distilled away. The residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: hexane-ethyl acetate (1:1)), so as to obtain 222 mg (68%) of caramel product. This compound was a mixture (2:1) of two stereoisomers.

NMR (CDCl_3) δ

2.32 (dd), 2.57 (dd), 2.70 (ABX type), 2.85 (dd),
2.97 (m), 3.11 (s), 3.12 (dd), 3.16 (s), 3.22 (dd),
3.82 (br), 4.13 (ABX type), 4.20 (ABX type),
4.48 (t), 4.53 (t), 4.86-5.12 (m),
7.2-7.4 (m, 5H)

[Step 3] :

N-[(2,3-dihydroxy)-3-phenylpropyl]-1-deoxynojirimycin
196 mg (0.42 mmol) of N-[(2,3-dihydroxy)-3-phenylpropyl]-1-deoxynojirimycin tetraacetate was dissolved in 5 ml of methanol. 3 mg of potassium carbonate was added and stirred for 3 hours at room temperature. After distilling away the solvent, the residue was purified with silica gel column chromatography (eluting solvent: chloroform-methanol (3:1)), so as to obtain 128 mg (98%) of colorless caramel product. This compound was a mixture (2:1) of two stereoisomers.

NMR (CD₃OD) δ

2.05 (dd), 2.17 (dd), 2.23-2.35 (m), 2.54 (dd),
2.87 (dd), 2.98 (dd), 3.10 (t), 3.14 (t),
3.2-4.0 (m), 4.50 (d), 4.68 (d),
7.15-7.50 (m, 5H).

Next, shown are results of evaluating cancer cell antimetastatic effect of the N-substituted deoxynojirimycin derivatives of the present invention.

[Effect Test]

[Test Method]

From melanoma B16 strain, which is a mouse tumor cell, a B16 high metastatic strain was selected for use based on the Fidler's method (Method in Cancer Research, 15, 339-439, 1978). Antimetastatic effect was evaluated based on the method of Kijima-Suda and others (Proc.,

Natl., Acad., Sci., U.S.A., 83, 1752-1756, 1986; Cancer Research, 46, 858-862, 1986.). First, the B16 high metastatic strain was seeded on Dulbecco's ME medium (DME medium) containing fetal bovine serum. N-substituted-1-deoxynojirimycin represented by general formula 1 was added, and the cells were cultured for 2 to 4 days at 37°C in the presence of 5% CO₂. The grown cells were peeled from the culture vessel with trypsin-EDTA solution. These cells were suspended in Dulbecco's balanced salt solution without Ca⁺⁺ and Mg⁺⁺ at 1×10⁶ cells/1 ml based on living cells.

Mice were injected with 0.1 ml of this suspension via tale vine to transplant the cells. After grown for 14 days, the lungs were extirpated by laparotomy. The number of the surface and internal metastatic nodes of B16 high metastatic strain formed on the lungs was counted and compared with the control which was not treated with the agent.

[Test Example 1]: Cellular Cytotoxicity

The B16 high metastatic strain was cultured in DME medium containing 10% fetal bovine serum at 37°C in the presence of 5% CO₂. The cells were peeled from the culture vessel with trypsin-EDTA solution, and suspended at 1×10⁴ cells per 1 ml. 150 µl of the suspension were added to and mixed with each 50 µl of test drug and control drug solution. The cells were then cultured for 4

days, and the living/dead thereof was observed under an inverted microscope to decide cellular cytotoxicity. The result is shown in Table 1.

Table 1

Used cell	B16 high metastasis strain	
Added drug	Concentration	Viability
Non-added		+
Compound of Production Example 9	10 µg/ml	+
	30 µg/ml	+
	100 µg/ml	+
Compound of Production Example 10	10 µg/ml	+
	30 µg/ml	+
	10 µg/ml	+
Compound of Production Example 7	10 µg/ml	+
	30 µg/ml	+
	100 µg/ml	+
Adriamycin (control)	0.1 µg/ml	-

"+" represents "living" and "-" represents "dead".

According to the test result, the compounds of the present invention did not have cellular cytotoxicity to B16 high metastatic strain.

[Test Example 2]: Antimetastatic Effect

B16 high metastatic strain was seeded to DME medium containing 10% fetal bovine serum. Each test drug was added at 30 µg per 1 ml, and the cells were cultured for 3 days at 37°C in the presence of 5% CO₂. The cells were peeled from the culture vessel in the same way as test example 1. These cells were suspended in Dulbecco's

balanced salt solution without Ca^{++} and Mg^{++} at 1×10^6 cells/1 ml based on living cells. BDF₁ Mice (8 weeks old, male) were injected with 0.1 ml thereof via tail vein to transplant the cells. After grown for 14 days, the lungs were extirpated by laparotomy. The number of the surface and internal metastatic nodes of B16 high metastatic strain formed in the lungs was counted. The result is shown in Table 2.

Table 2

Added drug	The number of lung metastatic nodes (average \pm standard deviation)
Non-added	207 ± 47
Compound of Production Example 9 (30 $\mu\text{g}/\text{ml}$)	96 ± 29
Compound of Production Example 10 (30 $\mu\text{g}/\text{ml}$)	60 ± 18
Compound of Production Example 7 (30 $\mu\text{g}/\text{ml}$)	18 ± 7

According to the result, the treatment with the compounds of the present invention greatly reduced the number of metastatic nodes formed in the lung.

The cancer cell antimetastatic agent of the present invention is oral or parenteral formulate containing the above N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative, and clinically administered via vein, artery, skin, subcutaneous, intracutaneous, rectum or muscle, or orally. It is expected that direct administration to a tumor brings intense effect. The dose, which depends on

administration route, dosage form, and age, weight and condition of a patient, is basically 100 to 3,000 mg per day and given one or several times.

As the parenteral formulate, there can be given sterile aqueous and non-aqueous liquid formulation and emulsion formulation. As the base of the non-aqueous liquid formulation and emulsion formulation, there can be given propylene glycol, polyethylene glycol, glycerin, olive oil, corn oil, ethyl oleate, etc.

As the oral formulate, there can be given capsule, tablet, granule, powder, etc.

To these formulates, starch, lactose, mannite, ethylcellulose, sodium carboxymethylcellulose or the like is blended as excipient, and magnesium stearate or calcium stearate is added as lubricant. As binder, gelatin, gum arabic, cellulose ester, polyvinylpyrrolidone or the like is used.

Next, a formulation example of the present invention is described.

[Example]

N-[3-(4-fluorophenyl)-2-propenyl]-1-deoxynojirimycin: 200 mg

lactose: 130 mg

potato starch: 70 mg

polyvinylpyrrolidone: 10 mg

magnesium stearate: 2.5 mg

Lactose and potato starch were mixed and wetted uniformly with 20% solution of polyvinylpirrolidone in ethanol. The mixture was filtered with 1 mm mesh, dried at 45°C, and filtered with 1 mm mesh again. The obtained granule was mixed with magnesium stearate, and shaped to tablets.

[Advantage of the Invention]

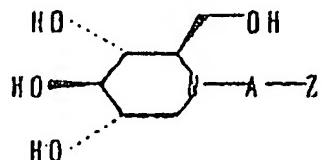
The present invention is a highly useful substance having cancer cell antimetastatic effect. The cancer cell antimetastatic agent containing this substance as the active ingredient solves the problem of cancer cell metastasis, which there is currently little countermeasure for and affects prognosis of patients with cancer the most, and is therefore a highly useful invention.

AMENDMENT

6. Content of Amendment

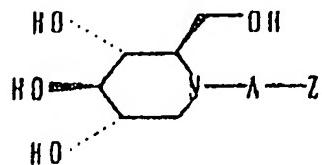
(1) The patent claims are amended as follows.

"1. An N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative represented by the following formula,



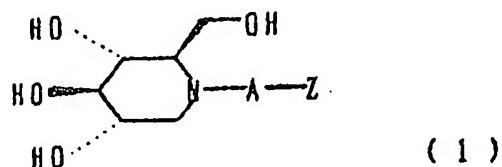
wherein A represents a hydrocarbon group of 3 to 5 carbon atoms optionally substituted with hydroxyl, alkyl halide or alkoxy group, the hydrocarbon group optionally comprising a double or triple bond, and Z represents phenyl, fluorinated phenyl, biphenyl, cycloalkyl or halogenated alkyl group.

2. A cancer cell antimetastatic agent characterized by an active ingredient which is an N-substituted-1-deoxynojirimycin derivative represented by the following formula or an addition salt thereof with a pharmaceutically acceptable acid,



wherein A represents a hydrocarbon group of 3 to 5 carbon atoms optionally substituted with hydroxyl, alkyl halide or alkoxy group, the hydrocarbon group optionally comprising a double or triple bond, and Z represents phenyl, fluorinated phenyl, biphenyl, cycloalkyl or halogenated alkyl group."

(2) On p.4 (p.4) of the description, formula 1 is amended as follows:



(3) On p.3, l.12-14 (p.3, l.10-12) of the description, "Therefore, it is ... cancer cell metastasis." is amended as follows.

"Therefore, it is expected that suppression of cancer cell metastasis further improves the effectiveness of current cancer treatments."

(4) On p.15 in the 9th line from the bottom (p.12, l.4-5) of the description, "... heating or leaving at room temperature with an aralkyl- or aralkenylation agent ..." is amended as follows.

"... heating or leaving at room temperature 1-

nojirimycin with an aralkyl- or aralkenylation agent ..."

(5) On p.16 (p.13) of the description, formulae (14), (15) and (16) are amended as follows.

